

ACCU news

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

特集

未来へ、社会へ開かれたACCU ～オフィスの移転とACCUのこれから～

インド教職員招へいプログラム……5

中国教職員招へいプログラム……5

若者主体の持続可能なコミュニティ開発プロジェクト

ユースフォーラム……6

第2回サステナブルスクール研修会……8

ESD推進ネットワーク全国フォーラム……8

ASPUnivNetシンポジウム……9

タイ教職員招へいプログラム……9

第10回ユネスコスクール全国大会……10

文化遺産ワークショップ……10

活動メモ……11

No. **407**

2019年2月号



ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

未来へ、社会へ 開かれたACCU

～オフィスの移転とACCUのこれから～

持続可能な社会の実現を目指す

理事長 田村哲夫

新しいオフィスへの移転を無事終え、職員も心機一転事業に取り組んでおります。

今回、40年以上事務所を構えていた東京神楽坂を離れ、神保町の新オフィスに移転するにあたって、職員らの申し出により、あらゆる意味での職場環境の改善に向けて検討することになりました。

昨今、世間では社会構造の変化に対応した柔軟な働き方を模索する動きが加速していますが、私も組織の責任者として職員が生き生きと働く環境づくりの重要性を実感しております。

働きやすさは、創造的でチャレンジに前向きな職員を育てる組織に不可欠です。一朝一夕に大きな変化を遂げることはできませんが、職員の働き方改革を通じて、より柔軟で開かれた組織を目指し、有意義でユニークな事業を展開していく所存です。



2年後には創立50周年を迎えます。従来から変わらず大切にしてきた「教育と文化の振興により、持続可能な社会の構築に貢献する」という団体のビジョン、そして新たな挑戦や更なる発展のために積極的に変わろうとする姿勢、そのいずれもがこれからのACCUに欠かせないものと信じています。今後はよりSDGs^{*}を意識して、平和で持続可能な社会の実現に向けた多様な事業を進めてまいりますので、どうぞご期待ください。

今後ともACCUへの温かいご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

職場環境と事業展開の見直し

ACCUは2018年10月に神保町の出版クラブビルに移転しました。設立当初よりアジアの図書開発活動に貢献してきたACCUにとって、本の町「神保町」でのスタートは、“振り返りと前進”の好機にもなりました。

まずはACCUが目指している「持続可能な社会実現のための事業の遂行」のために、自らの働き方も持続可能でなければならないと考え職員全員で検討を重ねました。その結果、事務所のフリーアドレス化を実現し、早速その効果も実感しております。フリーアドレスとは席を固定しない新しい職場環境のスタイルであり、これにより業務スペースの確保や継続的な整理整頓、所内のコミュニケーションの円滑化が図れました。

事業展開においては、時代に即した視点で継承してきた事業を進め、また求められる新たな分野にも応えていく姿勢を確認しました。

次頁では未来に向けた各部の挑戦をご紹介します。



^{*}Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標。持続可能な世界を実現するために国連が定めた17の目標と169のターゲットから構成されている。

新しい視点での各部の挑戦

ネットワーク
強化

協働

開拓

柔軟性

教育協力部

異なるフィールドを結び、
新たな展開を生み出す

今年度はユネスコをはじめとする既存の関係機関との連携強化や国内外の新たなステークホルダーの開拓を積極的に進め、事業にも新たな展開が生まれています。実際に他機関と協働して、地域をベースにしたESDについて考えるワークショップやESDの教師教育に関する会議を実施し、アジア太平洋地域からの幅広い参加を得ました。またその他に、学校におけるwell-beingをテーマにしたプロジェクトや、公民館等と連携した地域発のESD推進事業も始動しています。

日本と世界、学校と地域など、異なる場所や分野を結ぶ役目はACCUの得意とするところ。柔軟な発想で従来ACCUが大事にしてきたユネスコスクール支援事業などと新たな事業の掛け合わせの可能性を模索し、相乗効果を得られるような事業展開を目指しています。

国際教育交流部

寛容な人・社会・地域をともに創る

これまで教員交流事業を実施してきた「人物交流部」は2018年4月から「国際教育交流部」となり、教員交流と模擬国連の2つの事業を展開しています。部名変更と移転を機に部内ワークショップを行い、「事業を通して学び合いのきっかけを提供し、寛容な人・社会・地域をともに創る」という指針を共有しました。2月には事業対象国の関係者が一堂に会し、会議や一般公開の報告会を通して事業評価やSDGs達成に交流が果たす役割・意義を話し合います。

模擬国連推進事業では、毎年の全日本高校模擬国連大会で選抜された高校生をNYで行われる国際大会に派遣してきましたが、2018年から3年間限定で派遣人数を増員する「地方創生枠」を創設し、機会の拡充を図っています。

多様性

寛容

学びあい

ともに

業務の
スリム化

さまざまな
支援の
あり方

総務部

発信力UPを目指して、
システムづくりと業務の効率化

総務部は、業務の効率化を目指して、さまざまなシステム化に取り組みます。所内業務の効率化はもちろんのこと、ACCUを支援して下さる方々が少しでも手続きをスムーズに済ませることができるよう、会費の自動引き落としやクレジットカード決済が可能となるような仕組みの改善を図り、未来のサポーターに向けて効果的に発信していきたいと思っています。

発信力

移転レポート

移転はACCU職員がひとつとなって取り組むプロジェクトにしたいという思いから、2018年の年明け早々に移転チームを結成しました。まずは職員総動員で「オフィスづくりワークショップ」を開催し、一人ひとりが描く理想のオフィス像を書き出し、デザイナーさんと共に打ち合わせを重ねました。それと並行してシステムのクラウド化を図りましたが、これは移転の中で最も大変な作業でした。

苦勞の甲斐もあり、引っ越し前に移転後のシステム環境を構築でき、明るいデザインの新事務所でスムーズなスタートができました。

新しい事務所のご紹介コーナー

一つのビルに以前よりも多くのテナントが入っているのが良い。テナント同士の交流が活発になると互いに得るものがあり、さらに良くなると思う。

その日の業務内容によってプロジェクト担当者同士で近い席に座るなど、自由に席を決められるので作業がしやすくなった。

休憩スペースがカジュアルな雰囲気、職員間の交流が増えた。

毎日異なる席に座り、色々な人と隣になるので意図通りにコミュニケーションが活発になっていると感じる。距離も近くて気軽に話やすくなった。

オフィスが小さくなったことで、ものを増やさないとごみを減らすという環境意識がより高まった。

オフィス内で各部の会話が入るので、以前より事業の現状や課題を知る機会が増えた。

さようなら
そして
ありがとう!

Brain
Storming for
新オフィス



読者の皆様とACCUをつなぐ「アンケート」企画

今回の特集を通して職員全体で改めて「開かれたACCU」というこれからの方向性を確認しました。

そこで、実現に向けた第一歩としてアンケートを実施いたします。『ACCU news』について、またACCUの事業について、ぜひ皆様からのご意見・ご提案をお寄せいただきたいと思います。

皆さまのお声を励みに、ご期待に応えていきたいと思っております。

プレゼント

アンケートにご回答いただいた方から、抽選で5名の方にACCUオリジナルバッグをプレゼントいたします! どうぞふるってご応募ください。

締切 2019年3月22日(金)



オリジナルバッグの波紋模様は世界中の子どもが平等に持つ「全てにおける可能性」が無限に広がり、呼応する様子を表しています。

URL

<https://ws.formzu.net/sfgen/S30862527/>



ACCU PROGRAMME

インド教職員招へいプログラム

教師と生徒たちの変化が新しい扉を開く

国際教育交流部 藤澤 弥生



日印教員交流会の様子

このプログラムは、学校訪問や教師・生徒との交流を通して相互理解と友好を促進し、さらに教師の学びを生徒へと広げることで、平和で持続可能な社会の実現を図るものです。

平和の象徴・ガンジーの国、インド。「日本とインドには『平和』という共通のキーワードがある」というのはプログラムにご協力いただいた在日インド大使館の方の言葉です。今回のプログラムでは、都内近郊の学校や児童館を訪問したほか、富士山の麓でのエコツーリズム体験や伝統文化体験を行いました。そして最

終日には日印教員交流会を行い、全国から集まった14人の日本の先生とともに、「平和で持続可能な社会に向けた教育」について事例紹介やディスカッションを行い、今後の活動案を作成しました。

プログラムを終えたインドの先生からは、「日本の先生や生徒と直接交流することで、インドに居ては分かり得なかった事が多く学べた」「平和・環境・貧困・開発・人権といった世界の課題に対して、草の根レベルでどう対応していくかを考えるヒントとなった」といった声が聞

かれました。また、今後の抱負として「今回の学びを自分の生徒や同僚に伝える」「生徒達が責任感のある地球市民になるように教える」「日本の先生と連絡を取り合い、協働学習を行う」という声があり、平和で持続可能な社会に向けて日印の連携による取り組みが始まる気配が感じられました。

DATA

実施期間: 10月7日(日)~14日(日)
訪問場所: 東京、神奈川、山梨
参加者: 14名

中国教職員招へいプログラム

関心を集めた「給食」

国際教育交流部 伊藤 妙恵



大牟田市立明治小学校、給食の様子

2018年11月7日(水)、大牟田市立明治小学校を訪れた25人の中国教職員は2~3人に分かれ、1年生から6年生の教室で給食をとりました。各教室に行く前に、校長の宮下哲夫先生から「日本では出されたものを残さず食べる習慣があり、子どもたちもそれを実践しています。中国の先生方もぜひ残さず召し上がっていただきたい」と説明がありました。給食から戻ってきた一人の先生は、給食の牛乳を最後まで飲んでくださいと児童に言われ、食べ物を大切にしていることが伝わり、勉強になったそうです。

教室を清潔に保っていることに加え、食事前の手洗い、食後にはトレイ・食器の種類・牛乳パック・ストロー等を分類して片付けていること、栄養面のみならず、児童と教職員がともに環境を整え、食事の際の望ましい習慣を身に付けていることに訪問団の注目が集まりました。

お腹を満たす役割以外にも、栄養あるバランスのとれた食事、正しい食習慣を身に付けることも目指す給食について、中国の先生は、子どもの「節約意識」「エコロジー意識」「自立能力」と結びつけて理解され、所感が述べられました。このことは

プログラム終了後のアンケートでも多くの先生が触れています。その日に出た食パンにココアクリームで、ハートの中に「中国」「日本」と書いて、児童と先生の温かい気持ちも交換した給食の時間は学校訪問の中でも強い印象を与えました。

DATA

実施期間: 11月4日(日)~10日(土)
訪問場所: 東京、福岡県大牟田市
参加者: 25名

若者主体の持続可能なコミュニティ開発プロジェクト ユースフォーラム

SDGsの視点から 地域課題に向き合うアジアの若者たち

教育協力部 若山 洋子

ACCUでは、11月10(土)・11日(日)の週末、板橋区教育委員会との共催により、区内の生涯学習施設においてユースフォーラムを開催しました。フォーラムには、ACCUが2014年より「若者主体の持続可能なコミュニティ開発プロジェクト^{*1}」を展開してきたアジア地域4か国(インド、バングラデシュ、パキスタン、フィリピン)からのパートナー NGO 代表と、地域レベルで実践を積んできた若者が参加しました。また、今回新たな試みとして、日本各地で持続可能な地域づくりに取り組む4団体と、フォーラムの舞台となった板橋区内および近郊を拠点に活動する3団体、更にユネスコバンコク事務所をはじめとした国際機関からの有識者などを迎え、「持続可能性」「若者」「地域づくり」というキーワードの下、国境の壁、言語の壁を越えた事例の交換と情報共有が活発に行われました。

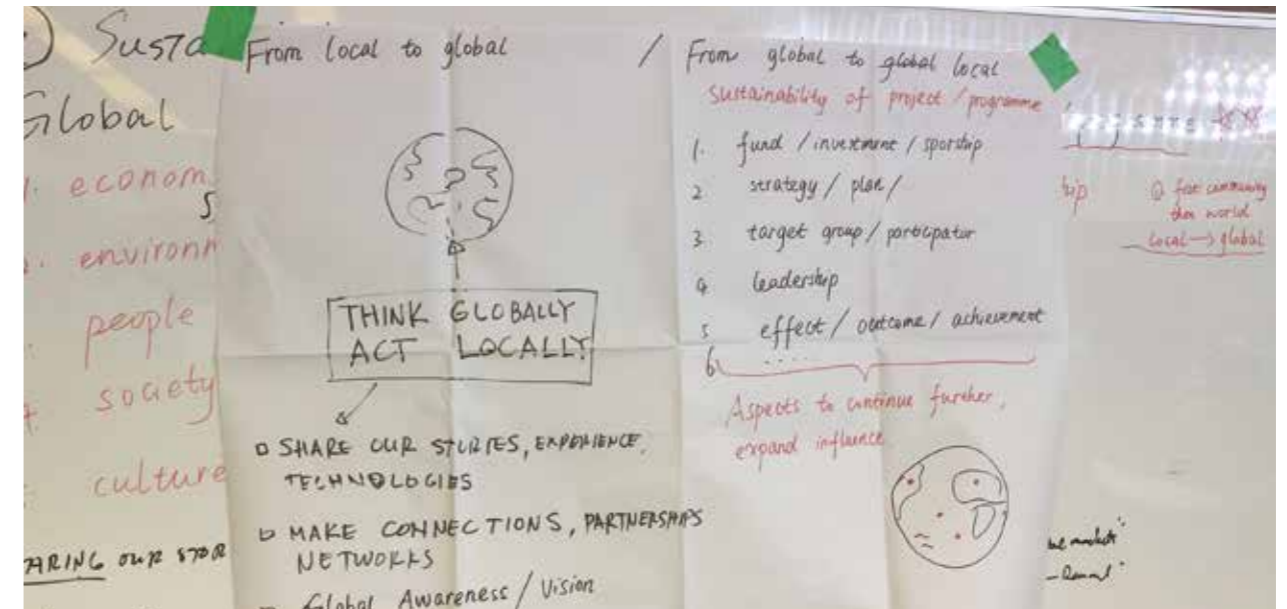
持続可能な世界、地域とは？

社会経済状況や文化背景はもちろん、取り組む地域課題も多様な参加者が集う今回のユースフォーラムでは、まず「持続可能性」についての各々の理解を交換しあうところから始めました。「誰一人取り残さない」とはどういうことか？「持続可能な世界」とは？「持続可能な地域」とは？などワールドカフェ形式でそれぞれの考えや想いを出し合い、お互いの意見に耳を傾けることで、各自がこれまで取り組んできた地域課題と他の地域、更には地球規模で取り組もうとしている開発課題がいかに結びついているのかをじっくり考える機会となりました。「個のレベルから家族、地域、国、地球までの全単位

において」「社会、経済、環境がバランスを保って循環的に機能し、文化が守られていること」といった非常に高度で概念的な議論が交わされる一方で、「『取り残す』というネガティブな表現に抵抗を感じる」「理想論に終わらせないためには、ビジョンや理念を政策に結びつけるところまで考えなければ」「地域での多様性を尊重すること」「人間の共感性を育むことが大切」といった、人と人、人と制度の関わりなどに主眼を移した意見も出され、深みのある議論が展開されました。

次のアクションを考える

フォーラムでは、フィールド視察や相互学習の時間を挟みつつ、各団体が自らの活動を振り返る時間も持たれ



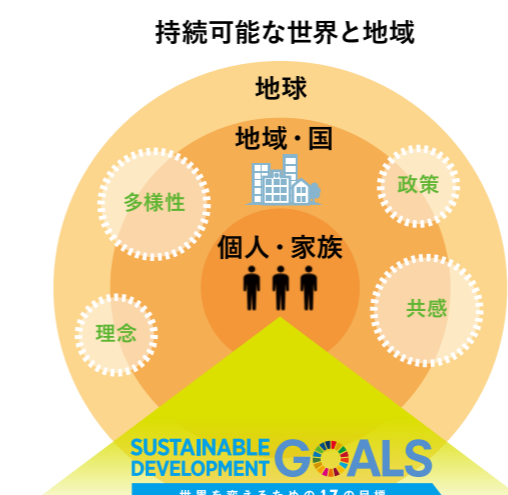
「活動の持続可能性を担保するためには」をテーマに議論

ました。その過程で、参加者が日頃から課題と感じている点をもとに、「ネットワーキング」「新たな価値創造」「地域づくり活動の持続可能性」という3つの分科会を設置し、参加者主導で活発な議論がなされました。

各団体の1年後、5年後、10年後を見据えたアクションプランの発表と、「励ましメモ」の交換で盛況のうちに幕を閉じたユースフォーラムですが、前述の分科会から自発的に立ち上がったSNSグループを通じ、今現在もネットワーキングとフォローアップアクションの共有が続いています。持続可能な地域づくりに挑戦する若者の活動が、フォーラムでの出会いと学び合いを経て今後どんな展開を見せていくのか、期待に胸が膨らみます。



視察先「ピース・スコレ」の活動拠点前で



SDGs(持続可能な開発目標)を達成するために、また同時に地域の抱える課題を解決するために私たちが出来ることは何だろうか？

DATA

開催日：11月10日(土)～11日(日)
 開催場所：東京
 参加者：約50名
 (フォーラム参加団体)
 CLC Youth Forum by CIVIC Foundation (バングラデシュ)、BRAC (バングラデシュ)、Centre for Environmental Education (CEE) (インド)、アンビシャス・ネットワーク(愛知県)、JAE (大阪府)、隠岐島前教育魅力化プロジェクト(島根県)、土気NGO(千葉県)、ワーカーズコープ(東京都)、ピース・スコレ 平和の学校(東京都)、無科学学習支援教室ミンゼミ(東京都)、Sanjh Preet Organization (パキスタン)、People's Initiative for Learning and Community Development (PILCD) (フィリピン)
 (技術協力団体)
 UNESCOバンコク事務所、アジア太平洋地域国際理解教育センター(UNESCO-APCEIU)、地域教育国際研究教育センター(UNESCO-INRULED)、岡山大学、帝京大学ほか



*1「若者主体の持続可能なコミュニティ開発プロジェクト」 2014年パキスタンでのパイロット事業を皮切りに、各国パートナー NGOとの協働で、南・東南アジア4か国で開催してきた国際教育開発プロジェクト。農村部に暮らす18～35歳の若者を対象としたノンフォーマルな学びを軸として、持続可能なコミュニティを創造する「変化の担い手」の育成を目指してきた。
 *2これまでの取り組みと課題意識をもとに公募(2018年8～9月)により選出。

第2回サステイナブルスクール研修会

サステイナブルスクール 24校 ～ 3年間の挑戦～

教育協力部 篠田 真穂

「多様な学校種が集まって、持続可能な未来のための学校について議論ができたことは私たちにとってとても刺激的で、貴重な場だった」

3年に渡ったサステイナブルスクール24校の挑戦が、最後の研修会で参加者から出たこの言葉に詰まっているように思えました。3年間でこれまでになかったことを生み出したり、もともとある取り組みをよりよいものにしたりと、それぞれの軌跡があります。

本事業では、ホールスクールアプローチ・デザインシートを活用することによって、

- 学校に関わる人たちにとって、納得のいくビジョンを設定すること
- ビジョンに沿って自校の取り組みを可視化すること

以上2点について、学び合いの場を繰り返し持ちました。これらのプロセスを丁寧に進めていくこと

は、学校にとって非日常的な経験です。24校の中には、この機会を活用し大きく飛躍した学校がいくつもあります。

その中で以下の2点が最も大きな成果であったと感じます。

- ①自校の取り組みをステイクホルダーや同じ校種だけが理解できる言葉で説明するのではなく、異なる校種にも理解してもらえるような表現で言語化したことで、異校種と積極的に交流できるようになった
- ②持続可能な未来に貢献する学校同士、共通項を見つけたり、自校の特長を知ったりすることにより、ダイナミックに自校の実践を捉えることができるようになった

この地道な実践の積み重ねによって、24校が有機的につながるプラットフォームが構築されました。今後もネットワークが持続して機能する



次のアクションを他校に共有する参加者の様子

よう、また、24校の取り組みが全国のESD推進校に継続的に発信されるよう、ACCUはサステイナブルスクールを応援していきます。

DATA
開催日：12月1日(土)
開催場所：東京
参加者：46名

ESD 推進ネットワーク全国フォーラムに ポスター出展しました！

サステイナブルスクールである気仙沼市立面瀬小学校、名古屋国際中・高等学校、NPO法人箕面こども森学園が、ESD活動支援センター主催の「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2018」でポスターセッションに出展し、3年間の取り組みを学校関係者、地域でESDを推進する方々へ発信しました。ホール出入口付近の絶好の立地で、多く

の方々が足を止め、展示内容に関心を寄せてくださいました。

サステイナブルスクールは、ESD推進の牽引役として対外的な活動の発信にも力を入れてきました。特に今年度は、ユネスコスクール全国大会(P10参照)をはじめ、事業の成果を学校主体で発信する機会を多く持つことができました。



DATA
開催日：11月30日(金)
開催場所：東京
来場者：約370名

ASPUnivNet シンポジウム

高等教育機関におけるESDの現在と展望

教育協力部 大類 由貴

ASPUnivNet^{*}は、設立当初から大学の知的財産をユネスコスクール、そしてこれからユネスコスクールに加盟したい学校に提供し、各地域のニーズに応じてESDの普及と深化のための支援に貢献してきました。

今年で設立10周年を迎えたことを記念し、ユネスコスクール全国大会翌日の12月9日に、ASPUnivNet初のシンポジウム「高等教育機関におけるESDの現在、そして展望—関連諸団体の取り組みを共有して」を横浜で開催しました。このシンポジウムは、高等教育機関でESD推進に携わっているProSPER、

Net、日本ESD学会、HESDフォーラム、CAS-Net JAPANとお互いの活動を共有し学び合うとともに、ユネスコスクール支援における各団体との今後の連携を深めることを目的としたものです。ASPUnivNet事務局であるACCUはこのシンポジウムの企画運営に携わりました。

各団体そしてASPUnivNetからは大阪府立大学、岡山大学、玉川大学、奈良教育大学の取り組みを発表した後、パネルディスカッションでは各団体からASPUnivNetの活動に関する感想や今後の展開についての議論がなされました。ASPUnivNetとユ

ネスコスクール両方の事務局を担うACCUとしても、今後のユネスコスクール支援につながる大変有意義な会となりました。

DATA
開催日：12月9日(日)
開催場所：神奈川
参加者：56名



パネルディスカッションの様子

タイ教職員招へいプログラム

日タイの架け橋として、 持続可能な社会のために

国際教育交流部 河口 枝里子

11月下旬、「ナーオ」(タイ語で寒い)と言いながら、冬の気候に触れて少しうれしそうな顔で、特別支援学校を含む初等中等教育のタイ教職員15名が来日しました。今回は、「持続可能な社会」というテーマでプログラムを構成し、SDGs(持続可能な開発のための目標)に積極的に取り組む都内の中高一貫私立学校と、2011年の東日本大震災により被災地となった女川町、石巻市の公立学校を含む4校を訪問しました。

タイ教職員からは、「日本は学習の目的を子どもたちが理解している

こと、また伝統文化を大事にしていることに驚いた」などの感想が聞かれ、訪問校では、「次はいつタイの先生が来るの?」「次はどの国の先生が来るの?」と子どもたちから嬉しい声が上がったそうです。

プログラム終盤では、日タイ教育交流会を開催し、全国から集まった日本教職員15名を交えて両国の教育について意見を交わしました。教育の目的とは、「人や社会のため」「豊かな生活のため」などの学力向上に重きを置かない意見が共有され、すでに「持続可能な社会」へ向けて



歓送レセプションでの記念写真

歩み出していることが窺えました。今後、日タイ両国の先生そして子どもたちがどのようにSDGsの実現に向けて変容していくのか楽しみです。

DATA
実施期間：11月27日(火)～12月3日(月)
訪問場所：東京、宮城
参加者：15名

*ユネスコスクール支援大学間ネットワーク

第10回ユネスコスクール全国大会

分科会運営報告



分科会の様子、ご登壇いただいた先生方は、左から宮城教育大学・市瀬教授、福山市立福山中・高等学校・上山教諭、杉並区立西田小学校・新井副校長

当部長をはじめ海外ゲストも多く参加し、節目の年にふさわしい大会となりました。ACCUは毎年恒例のブース出展に加え、今年は分科会も担当しました。主担当として企画・運営したのは、第7分科会「ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう」です。ACCUが3年にわたり実施してきたサステナブルスクール事業参加校より実践発表していただき、その後、有識者の知見も交えながら、ホールスクールアプローチによるESD実践のために何が必要か、何ができるかを会場全体で学び合いました。

そのほか、ESD/SDGsの教材作成を

考える分科会や海外との協働学習についての分科会にも直接・間接に携わり、今回はなんと11の分科会のうち3つにACCUが関わりました！ ユネスコスクールやESDに関心の高い多くの方々に、ACCUのことを知っていただく大変貴重な機会となりました。

教育協力部主任 藤本 早恵子

DATA
開催日：12月8日(土)
参加者：約800名
開催場所：神奈川

12月に横浜市で開催された第10回ユネスコスクール全国大会。800名近い来場者とともに、ユネスコ本部教育局の担

文化遺産ワークショップ（フィジー）

博物館収蔵品の記録実習

文化遺産保護協力事務所 研修事業部 中井 公



研修の様子、土器実測の手順を学ぶ

奈良事務所では、フィジー共和国で、2018年10月22日から27日まで、文化遺産ワークショップを開催しました。海外の現地で行うワークショップは今回で12回目ですが、大洋州地域での開催は、初めてです。共催者は首都スバにあるフィジー博物館。研修テーマは「博物館収蔵品の記録法（実測・拓本・写真）」というものです。収蔵品台帳が完備されていない同館の事情を背景に、リクエストされた内容でした。

研修には、フィジー国内の博物館や文化遺産保護を担当する機関から学芸員・調査員など14名が、またフィジー博物館の呼びかけでトンガからも1名が、参加しました。

プログラム前半は、実測と拓本の実習で、講師は東京文化財研究所の

石村智さんです。講師の指導のもと、博物館所蔵の土器を教材に、各自が台帳の完成を目指します。ですが、参加者の多くは、キャリアや真弧（形取りの器具）といった実測道具を、初めて手にするといいます。拓本の道具作りも、初めての体験で、集中力も途切れがちです。それでも、手順を繰り返しながらの実習の甲斐あって、上々の作品を仕上げました。

後半は、奈良文化財研究所の中村一郎さんを講師に迎え、写真撮影の実習です。まず、カメラ操作の基礎知識をじっくりと学習し、その後に、現地調達できる材料で撮影台を仮設して、撮影に臨むことにしました。照明の工夫ひとつで、被写体の質感

や立体感が変わることなど、実感し納得しながらの熱心な実習ができました。

最後に、実測図・拓本・写真の成果品を添付し、必要事項を記入して、台帳完成です。手間がかかる一連の作業ですが、根気よく続けて欲しいものです。

なお、ワークショップ開催は、地元フィジーのTVニュースや新聞でも報じられ、関心の高さを感じた次第です。

DATA
実施期間：10月22日(月)～27日(土)
開催場所：フィジー共和国(スバ)
参加者：15名

ACCU 活動メモ

2018年10月～2019年1月 ①実施期間 ②主催、共催団体名 ③開催場所 ④参加国、参加者数

インド教職員招へいプログラム

詳細…P5
①10月7日(日)～14日(日) ②文部科学省、ACCU、インド連邦政府人的資源開発省、インド環境教育センター ③東京都、神奈川県、山梨県 ④参加者14名

奈良 文化遺産ワークショップ

詳細…P10
①10月22日(月)～27日(土) ②文化庁、ACCU、フィジー博物館 ③奈良 ④20名

医愛祭資料展示

医療保健大学「医愛祭」に展示し、来場者に識字教育について説明を行った。
①11月3日(土・祝)～4日(日) ②ACCU ③東京医療保健大学世田谷キャンパス ④来場者295名

中国教職員招へいプログラム

詳細…P5
①11月4日(日)～10日(土) ②文部科学省、ACCU、中国教育部 ③東京、福岡県大牟田市、福岡市 ④25名

全日本高校模擬国連大会

①11月17日(土)～18日(日) ②グローバル・クラスルーム日本委員会、ACCU ③国際連合大学 ④参加高校生172名

タイ教職員招へいプログラム

詳細…P9
①11月27日(火)～12月3日(月) ②文部科学省、ACCU、タイ教育省 ③東京、宮城県石巻市、仙台市 ④15名

持続可能なコミュニティ開発プロジェクトユースフォーラム

詳細…P6～7
①11月10日(土)～11日(日) ②板橋区教育委員会、ACCU ③東京 ④約50名

アジア太平洋 ESD 専門家会合／中国 ESD20 周年成果総会

①11月10日(土)～12日(月) ②中国ESD全国工作委員会 ③北京 ④約600名

奈良 文化遺産の保護に関わる国際会議

①11月21日(水)～27日(火) ②文化庁、ACCU ③奈良市、橿原市今井町、長野県塩尻市 ④9か国9名(日本人講師・オブザーバーを含むと10か国43名)

SDGs 達成に向けたアジア太平洋教師教育会議

①11月27日(火)～29日(木) ②岡山大学、ACCU、ユネスコバンコク事務所他 ③岡山市 ④アジア太平洋地域19か国28名

サステナブルスクール第2回研修会

詳細…P8
①12月1日(土) ②ACCU ③東京 ④46名

奈良 文化遺産セミナー

①12月2日(日) ②奈良市、ACCU ③奈良市 ④200名

第10回ユネスコスクール全国大会

詳細…P10
①12月8日(土) ②主催：文部科学省、共催：NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム、ACCU他 ③横浜 ④約800名

ASPUUnivNet 第2回連絡会議／ASPUUnivNet シンポジウム

詳細…P9
①12月9日(日) ②ACCU、ASPUUnivNet、日本ESD学会、HESDフォーラム、CAS-Net JAPAN ③横浜 ④35名/55名

サステナブルミーティング（自主研究会）

①2019年1月14日(月) ②ACCU ③古屋 ④5名(スカイプ参加2名)

ハッピースクールプロジェクト会合

①2019年1月21日(月)～22日(火) ②ユネスコバンコク事務所 ③バンコク ④7名

SMILE Asia プロジェクト現地視察

①2019年1月22日(火)～25日(金) ②ACCU ③カンボジア(プノンペン、コンボンスプ州) ④3名

韓国教職員招へいプログラム

①2019年1月22日(火)～28日(月) ②文部科学省、ACCU、韓国ユネスコ国内委員会 ③京都府、奈良県奈良市、大阪府、兵庫県 ④96名

奈良 世界遺産教室

奈良県内の高校生に、文化遺産保護の重要性を楽しく学んでもらう出張授業。

i①10月2日(火) ③奈良県立法隆寺国際高校3年生 ④39名 ii①10月3日(水) ③奈良県立橿原高校1年生 ④320名 iii①10月10日(水) ③奈良県立香芝高校1年生 ④320名 iv①11月1日(木) ③奈良県立畷傍高校2年生 ④15名 v①11月21日(水) ③奈良県立五條高校1年生 ④35名 vi①11月27日(火) ③奈良県立高田高校1年生 ④78名 vii①10月19日(金) ③郷土学習推進協議会役員会(小学校教員) ④8名

ACCU INFORMATION

「第12回トッパンチャリティーコンサート」のお知らせ

凸版印刷株式会社様のチャリティーコンサートは、国際社会の課題の一つである途上国における「識字能力の向上」を支援する目的で開催され、2011年よりACCUの女性のための識字事業を支援先に選んでくださっています。多彩な楽曲の美しい調べを楽しみながら識字教育問題にも関心をお持ちいただきたく、ご案内いたします。

会場 トッパンホール(〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3)

最寄り駅：東京メトロ有楽町線江戸川橋駅(徒歩)

チケット料金 5,000円(税込)

申し込み方法 トッパンホールWEBチケット、トッパンホールチケットセンター、チケットぴあにて2月4日(月)より発売開始。



2019年5月29日(水)
19:00開演
大萩康司(ギター)
三浦一馬(バンドネオン)



2019年6月6日(木)
19:00開演
森 麻季(ソプラノ)
山岸茂人(ピアノ)

TOPPAN
CHARITY
CONCERT